

経営比較分析表（令和2年度決算）

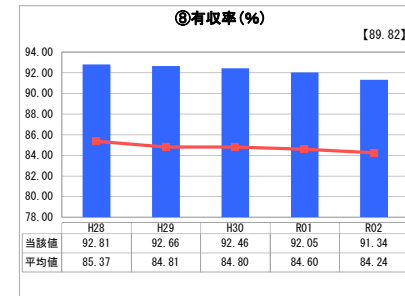
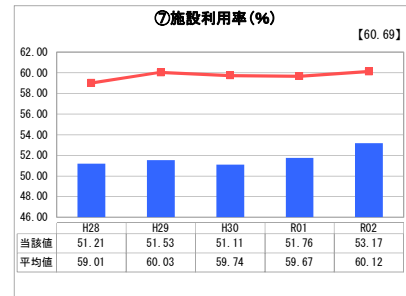
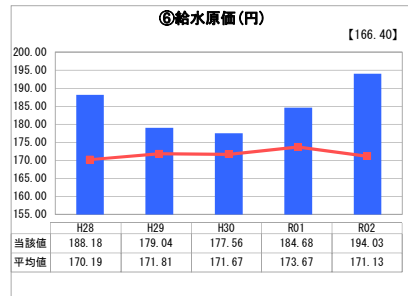
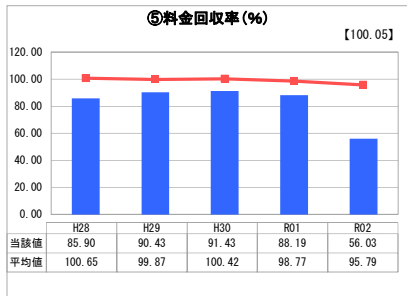
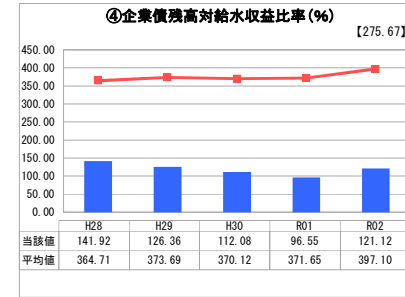
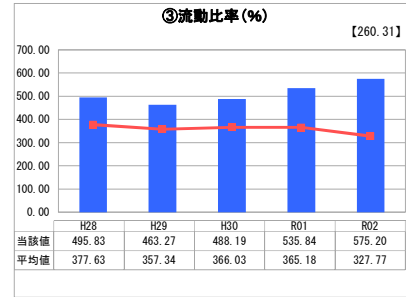
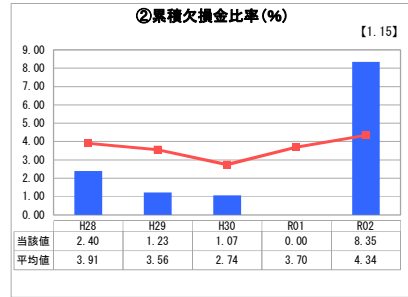
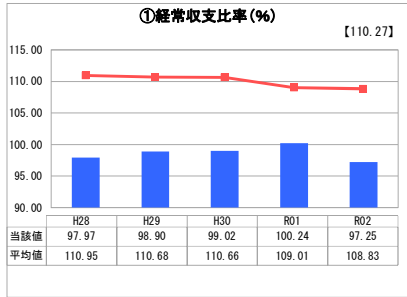
岡山県 浅口市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	89.35	97.22	3,170	

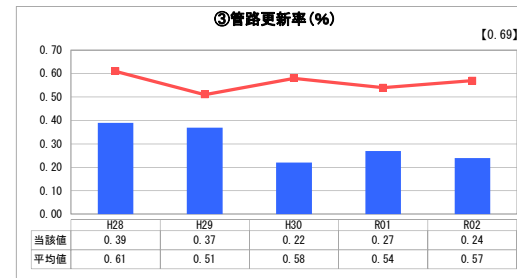
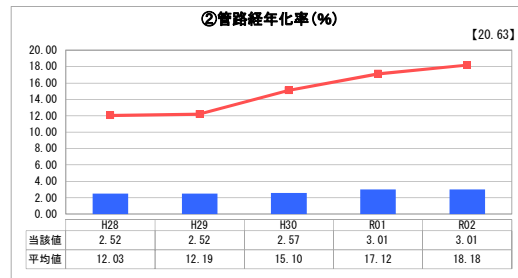
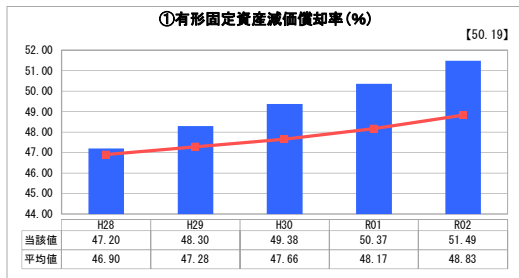
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,965	66.46	511.06
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
32,894	47.38	694.26

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度においては、収益的収入及び支出の単年度収支は費用が増加したことにより赤字となり、経常収支比率は依然として平均値を下回っている。当年度は、新型コロナウイルス感染症対策特別減免として水道料金の減免を実施したため給水収益が大幅に減少したことによる影響が大きい。引き続き単年度収支を黒字にすることを目標に、費用削減と受託工事に係る補償費・設計監督費の確保等の収入増に努めている。

流動比率は基準となる100%を上回っている。現時点では、将来的に、流動資産の減少傾向や流動負債の増加傾向は見込まれない。

企業債残高対給水収益比率は平均値よりも低い状況であるが、これは、近年、主に下水道工事に伴う配水管移設工事を補償費を財源として行っており、合併以後、企業債の起債をしていないことが大きな要因である。

料金回収率は基準の100%を下回っており、平均値よりも低い状況である。また、給水原価は平均値を上回っている。受水費や人件費の増加が大きな要因であり、適正な料金体系を検討していく必要がある。

施設利用率は平均値を下回り、50%程度となっている。今後、施設更新時に給水量による施設能力の最適化やダウンサイジング等の検討が必要である。

有収率は平均値を上回っており、前年度と同水準を維持している。漏水調査の実施や市民の通報により発見した漏水箇所の早期修繕などの取り組みを継続し有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率は平均値を下回っているが、管路更新率は毎年1%以下であり、管路の更新はあまり進んでいない。

平成30年度に策定した老朽管更新計画に基づき、当面は下水道整備に伴う支障移設を最優先とし、次に漏水が頻発する地区の配管から順次更新を行うことを基本に進めていく。

全体総括

将来的な人口減少に伴う給水収益の減少や施設の老朽化に伴う更新費用の増加に見合う財源を確保するため、安定的な事業運営が可能な料金体系の検討を行うとともに、アセットマネジメントの策定及び経営戦略の見直しによる中長期的財政収支に基づく施設の更新等を計画的に実行する必要がある。

恒常的に収益的収入が赤字となっているため、引き続き収益的収入及び支出の単年度収支を黒字にすることを目標とし、効率的な経営を進めていく。